



入学式



スポーツ大会



寮祭



新入生宿泊研修（学科長講話）

目次

☆沼津工業高等専門学校 の 目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針

☆新年度にあたって (年度方針等)

卒業生の「質」の保証と教育力	…………… 学校長	藤本 晶	4
高専における技術者教育の変化	…………… 副校長 (教務主事)	小林 隆志	4
毎日の生活を大切に	…………… 校長補佐 (学生主事)	芳野 恭士	5
平成29年度の学生寮のスタートにあたって	…………… 校長補佐 (寮務主事)	小林 美学	5
平成29年度のはじめにあたり	…………… 校長補佐 (専攻科長)	高野 明夫	6
新年度、スタートした機械工学科	…………… 機械工学科長	村松 久巳	7
一步前に踏み出す勇氣	…………… 電気電子工学科長	野毛 悟	7
新年度にあたって	…………… 電子制御工学科長	鄭 萬 溶	8
自主性を育む教育を目指して	…………… 制御情報工学科長	芹澤 弘秀	8
新たな年度を迎えて	…………… 物質工学科長	大川 政志	9
失敗を恐れずに挑戦を	…………… 教養科長	佐藤 誠	9

☆人事異動について

平成29年度 人事異動	……………	10
平成29年度 校務分掌・学級担任	……………	11
平成29年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員	……………	12

☆着任挨拶

どうぞよろしくお願ひ申し上げます	…………… 機械工学科	喜多 和	13
高専教員としての抱負	…………… 教養科	大橋 正則	13
大きな光を宿した若者たち	…………… 事務部長	杉浦 利勝	14
11年ぶりに	…………… 学生課長	八木 正行	14

☆新入生から (入学にあたり)

忘れないでね。4年後の自分へ	…………… 電気電子工学科1年	中村 晃盛	15
5年間の目標	…………… 電子制御工学科1年	大竹 葵	15
沼津高専と寮	…………… 制御情報工学科1年	軒田 佳林	16

☆卒業生から

多様な経験を通じて、いま思うこと	…………… 工業化学科 (現 物質工学科) 3期	吾妻 まり子	16
これまでを振り返って	…………… 機械工学科39期	見城 健太	17

☆留学生から

マレーシアからの挨拶	…………… 機械工学科3年	ジョシュア・ティオン・シュウ・カイ	17
こんにちは	…………… 電気電子工学科3年	バットルガ・ダワフー	18
セラマト バルケナラン (よろしくお願ひします!)	…………… 物質工学科3年	オンゴノ・スワンディ	18

☆寮生会活動について

現在の沼津高専学生寮	…………… 機械工学科4年 寮長	鈴木 大介	19
------------	------------------	-------	----

☆私の高専時代

今だから言えること	…………… 電気工学科31期	大沼 巧	19
-----------	----------------	------	----

☆教育後援会から

若き夢を応援します	…………… 教育後援会会長	上柳 麻里子	20
-----------	---------------	--------	----

☆お知らせ

平成29年度沼津高専1日体験入学のお知らせ	……………	21
平成29年度 (8月~3月) 行事予定表	……………	22
佐藤志保先生を偲んで	……………	23

沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

以下の意欲、および学力を有する者を受け入れる。

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者
- 科学技術を用いて社会に貢献する意欲の有る者
- 科学技術の役割、技術者の責任を考えられる者
- 他人の意見を聞き、自らの意見を言える者

本科

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

専攻科

教育方針

創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するため、融合複合・新領域分野をテーマとする専攻科実験の実施、長期インターンシップによるエンジニアリングデザインの実務体験、専攻科研究のマンツーマン指導などを教育方針としており、これらの教育方針の下に以下の学習・教育目標を達成する。

学習・教育目標

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
- (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる。
- (A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
- (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学、材料工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる。
- (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる。
- (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる。
- (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
- (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる。
- (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる。

新年度にあたって (年度方針等)



卒業生の「質」の保証 と教育力

学校長
藤本 晶

世間では「あの学校は難関校だ。」「偏差値はこの学校の方が高い。」などと、入学する際の難易度で教育機関を評価しがちです。高校や大学は入学者の偏差値で序列化され、それが学校の優劣に繋がっている感もあります。学生や保護者は少しでも序列の高い学校を目指し、そして塾などの受験産業はその後押しに邁進することになります。

しかし学校の本当の評価は入学時の偏差値ではなく、出口、即ち卒業生の質で決まるのです。卒業生が学校の目的に沿って活躍できているか？卒業生を調べれば、その学校が機能しているかどうかが判ります。認証評価やJABEE等の外部評価でも、卒業生の進路の調査や卒業生との面談がセットされます。進学校が難関高校や有名大学への合格実績を宣伝するのも、同じ理由によるでしょう。

卒業生の質を保ち、向上させるためには、質の高い入学生を受入れることが重要になります。入学してくる学生の質が高くなれば、必然的に卒業生の質も高くなるからです。そのため各学校は、教育理念や教育方針、教育の特色、学生生活の快適さなど、如何に良い学校であるかを宣伝し、質の高い受験生を集めることに努力するのです。

卒業生の質を維持向上させるのに、受験生の質の確保よりも重要となるのが、入学した学生をどれだけ教育できるかという学校の能力、すなわち「教育力」になります。教育力が高ければ、入学生の質に囚われずに、学生

の能力を伸ばすことで優秀な卒業生を社会に送り出すことができます。逆に教育力が低ければ、たとえ優秀な入学生を受入れても、その力を十分伸ばしてやることはできません。

ここで言う「質」とは、学力ではありません。それぞれの学校には使命や役割があります。各学校は、どのような卒業生を送り出すかという「ディプロマポリシー」と、それを実現するための「カリキュラムポリシー」と「アドミッションポリシー」を公開しています。これらに沿った教育によって、使命や役割に沿った卒業生を輩出できているかどうか問われることとなります。

高等専門学校は学校教育法で「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と明確に示されています。沼津高専でもこの目的に沿った上記の3つのポリシーをホームページ上で公開しています。これらのポリシーに沿って学生を受け入れて教育し、卒業させることが、社会が沼津高専に求める使命、役割になるのです。

質の高い受験生を集めること、質の高い卒業生へと教育すること、そしてなにより多くの学生を卒業させ、技術者として世に送り出すことが求められます。幸いなことに沼津高専は、企業から高く評価され、平成28年度の卒業生に対して30倍もの求人を受けています。これも高専の目的にそった教育がなされ、質の高い卒業生が社会で活躍してくれている結果に他なりません。

少子化、理科離れ、高学歴志向、運営予算の減少と、高専を取り巻く環境は厳しくなる一方です。そのような中でも沼津高専は、交通の便、周辺の人口やそこに存在する多くの企業など、恵まれた環境にあります。この環境を活かして、質の高い学生を集めるとともに、高い教育力で裏付けられた専門教育により、優秀な技術者を社会に送り出すことで、社会からの要請に応え続けようと思っています。



高専における 技術者教育の変化

副校長 (教務主事)
小林 隆志

4月に新入生205名、編入生2名、留学生3名を迎えて、本科生1,046名で新年度が始まりました。新年度の慌ただしさも一段落し、学校内も落ち着いてきた連休を迎える直前の5月1日に、教養科佐藤志保先生が急逝されました。これまで熱心に授業や学生指導にあたってこられ、学生の信望も厚かっただけに残念でなりません。心

よりご冥福をお祈りいたします。

近年の科学技術の急速な進展の中で、企業が発展していくためにはこれまで蓄積した技術の上に、大きな技術革新が必要とされる時代となってきています。このような産業界に技術者を送り出す高専の教育にも変化が求められています。高専機構が中心となり全国高専の各専門分野における標準的な授業内容となるモデルコアカリキュラム(MCC)の検討を進めてきました。最近最終版が確定し、平成30年度より各高専でMCCに基づくシラバス(授業計画)を適用することとなっています。本校でもMCCを活用して、技術者として必要とされる標準的な知識をバランス良く身につけることのできる教育カリキュラムの検討を進めています。また、ICT(情報通信技術)

やアクティブラーニングを用いた自学・自習体制も整えるべく検討を進めています。同時に、高専教育の特色である、学生の持っている夢やアイデアの実現への挑戦も応援できるような体制を整えていきたいと考えています。

5月の連休の前後に、1年～4年を対象にクラス懇談会を開催いたしました。昨年からの教育後援会が支部会中心の活動になり、保護者の皆様が学校にお出でいただく機会が少なくなったことから、保護者と担任との面談の機会をつくるために開催しました。多くの保護者の方のご参加をいただきありがとうございました。教務関係では、教育後援会の教育部会、支部会活動を通じて、保護者の皆様のご意見を取り入れてまいりたいと考えていま

す。

今年度は夏休みが7月18日から9月8日までと長くなっています。長い夏休みを利用して、日頃できない体験や自分の目標に向けての取り組みなどを行って、有意義に過ごしてください。もちろん、これまで苦手とする科目を重点的に克服するのもいいと思います。夏休み明けにはいろいろな体験して、成長した学生の皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。

これからも時代の変化に対応しつつ、学生の皆さんが技術者になるための最大限の支援ができるよう務める所存です。引き続き保護者の皆さまのご理解とご支援をお願いいたします。



毎日の生活を大切に

校長補佐（学生主事）
芳野 恭 士

学生主事として2年目の任期を迎えました。今年度も学生諸君の主に生活面でのサポートをして参りますのでよろしくお願い致します。

学生諸君を取り巻く危険要因としては、交通事故やクラブ活動などでの事故、規則違反、メンタル面でのトラブル、学資などの経済面でのトラブルなどがあるものと思います。本校ではこういったリスクに、これまで同様に対処していく所存です。特に学資面では、従来の国立高等専門学校機構の授業料免除制度に加え、昨年度より本校独自の奨学金制度である「5月の太陽奨学金」を立ち上げました。これは、富士にあります明産株式会社からいただいた寄附金を原資に立ちあげたものです。また、本校同窓会の奨学金制度もありますので、経済的な困窮が問題で学生諸君が勉強を続けられない心配がある場合には、こうした制度に申請してみてください。

メンタル面でのサポートは、本校では学生生活支援室が行っています。学校カウンセラーが週に2回、精神科医が月に2回、それぞれカウンセリングを行っています。

学生自身だけでなく保護者の皆様も予約によりご利用できますので、ご希望がある場合には担任などを通じてご相談ください。

さて、最近急増しているトラブルにインターネット関連のものがあります。スマートフォンが普及しインターネットがより身近なものになりましたが、それにつれてツイッターやラインのようなSNS、ネットショッピングなどでトラブルとなる者が増えています。学生諸君は、ツイッターなどに自分自身が特定されるコンテンツ（顔写真、風景写真、自分や友人の氏名、住所や大まかな場所、学校名を含む自分の履歴など）を絶対に公開しないよう十分に注意してください。本人が特定されると、写真や名前を使って外部の者から嫌がらせを受ける可能性があります。実際に、そのような嫌がらせで困っている学生も出ています。友人同士でも、お互いに掲載するコンテンツに注意しないとイケません。また、ネットショッピングでは、未成年でも出品できるウェブサイトが出てきています。インターネットの使い方については、是非、学生と保護者の皆様の間でも普段から話しをしてほしいと思います。

保護者の皆様には、平素本校の教育にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。今年1年、学生諸君が安全に過ごせますよう、私たち教職員と一緒に見守っていただけますようお願いいたします。



平成29年度の学生寮のスタートにあたって

校長補佐（寮務主事）
小林 美学

平成29年度の学生寮は、留学生6人を含む561人でスタートしました。寮生会では寮長の鈴木大介君をはじめとする本部役員や、各棟や各部署の役員が張り切って活動しています。私も主事として3年目を迎えました。さ

すがに少しは慣れて来たと思いますが、寮では日々新しい出来事が生じます。その1つ1つに、今年度も真摯に向き合いたいと思います。

さて寮生の保護者のみなさまには4月に文書で、非常持ち出し袋購入のお願いをしました。おかげをもちまして、この原稿を書いている5月中旬の時点でほとんどの学生から申し込み書の提出がありました。寮で用意しているヘルメットとともに、6月中旬には非常時に寮生個々が必要なものを持って避難できる態勢が整います。その時期を目処に現在の「学生寮の地震防災体制について」もより迅速に行動できるものに見直し、有事に備えたい

と思います。

また昨年度は寮食堂業者の競争入札を行い、応募した業者には昼食時の混雑解消や一品追加したい学生への対応など、いくつかの項目について提案を求めました。結果として委託することになった業者に変更はありませんでしたが、入札時の提案事項は、配膳の並列化やプラスワンサービス提供などの形態で実現化され、サービスの向上につながっています。大人数に安全に安定した食事を提供する性質上、寮の食事にはどうしても様々な制約が生じますが、今後も機会がある度にサービスの向上を検討していきたいと思っています。

なお食事の質に直接関係する給食費の価格設定についても、一度、見直しを検討したいと考えています。他高専の状況や、一昨年度の寮生保護者懇談会で実施したア

ンケートの結果などを基にまずは学内で検討し、その後、教育後援会の寮生部会や支部会でご意見を伺いたいと思います。

寮務関係教員については、人数は例年と変わりませんが、役割分担を少し変更し、より広く相談にのったり助言を行ったりできるようにしています。また寮生会の組織についても、今年度は試行として、マテカ執行部長が本部役員に加わっています。マテカ執行部では、これまでの講義や自習とは異なった形態による学習支援も計画しているようです。彼らの活躍に期待をしています。

学生の生活の場である寮では、今年度も1年間の活動の中で様々な出来事が生じ、その中で学生達も多くのことを学んで行くと思います。1年間、どうぞよろしくお願ひします。



平成29年度のはじめにあたり

校長補佐（専攻科長）
高野 明夫

日ごろより専攻科の教育活動にご理解ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

本年度は、1年生30名、2年生27名の計57名が専攻科に在籍しています。コース別では、環境エネルギー工学コースに20名、新機能材料工学コースに13名、医療福祉機器開発工学コースに24名となっています。本年度の専攻科は私の他に、遠山和之教授、小村元憲准教授、横山直幸准教授の3名のコース長、鈴木尚人准教授、吉野龍太郎教授、山根説子准教授の3名の専攻科運営委員の合計7名で企画運営に当たります。よろしくお願ひいたします。

以下に、専攻科入試、特例適用による学位取得、1年生の長期インターンシップ、2年生の進路状況について報告させていただきます。

平成29年度入試では、24名の定員に対し38名が受検し、36名が合格しました。30名が入学していますので、新入生の定員充足率は1.25でした。平成30年度入試では、学力入試の物理と化学の出題範囲を変更予定ですが、4月21日(金)に本科生対象に進学説明会を開催して周知いたしました。なお、今年は5月27日(土)に推薦入試、7月1日(土)に学力入試が予定されています。

次に、特例適用についてです。本校専攻科は特例適用専攻科ですが、特例が適用されると、学生が学位の申請を行う際に必要とされる学修成果レポートと筆記試験が共に免除されます。平成28年度は、修了生24名全員に学位が授与されましたが、内、機械工学を除く19名に特例が適用されました。本年度以降は、機械工学を含めた修了予定者全員に特例が適用されることになっています。

なお、特例適用専攻科では、審査を経た教員が専攻科研究に当たることになっており、本校では、平成29年4月時点で指導教員として25名、指導補助教員として8名の計33名が認定されています。全て博士号取得者ですが、今後も認定教員の増員を図る予定です。

次に長期インターンシップの状況についてお伝えします。専攻科では、1年生の後期10月から1月の約4か月間、学生を企業や大学に派遣して、設計・製造・開発や実験・解析・研究の実務を体験させます。企業からの応募数は、平成27年度が27件でしたが、平成28年度は36件に増加しました。しかし実際の配属先については、企業等が20件から16件に減り、大学への配属が6件から10件に増加しました。これは、大学との共同研究や大学院への進学志望が増えたことに起因していると考えられ、平成28年度の特徴となりました。

最後に2年生の進路について報告します。平成28年度は24名の修了生のうち、就職が13名、大学院への進学が11名でした。就職希望者に対する就職率、進学希望者に対する進学率は共に100%でした。本年度については、4月時点で就職希望者14名、大学院への進学希望者11名となっています。就職希望者については、すでに数名に内定が出ており、昨年と同様の傾向で進んでいます。

地域産業と成長分野に対応した3コース、特例適用による確実な学位取得、JABEE（日本技術者教育認定機構）によって保証された世界水準の教育、就職率および進学率100%の実績等、多くの特徴を本専攻科は有しています。ぜひ多くの学生が専攻科を目指し、多様な分野で活躍できる技術者となって社会に貢献してくれることを期待しています。今後とも専攻科への皆様のご支援とご協力をよろしくお願ひいたします。





新年度、スタートした 機械工学科

機械工学科長

村松久巳

入学、進級、誠におめでとうございます。新入生41名を機械工学科に迎えて、新たな気持ちでスタートしました。1年生の御殿場研修で実施した学科長の講話では、これから学ぶ科目のあらましや特徴を説明するとともに、日本機械学会の制作した機械工学の紹介ビデオを見ただきました。機械工学は先端技術に寄与し、工業を支える大切な分野であることが理解できたと思います。2年生42名、3年生46名、4年生40名、5年生37名の学生が機械工学を学習しています。2年生と3年生は高学年に向けて基礎科目の実力を養成してください。また4年生は進路先の目標を定め、また、5年生は卒業を目指して機械工学の学修の完成を目指してください。クラス担任を紹介します。1年生は成田智子先生と副担任前田篤志先生、2年生は芳賀多美子先生と副担任鈴木尚人先生、3年生は山中 仁先生、4年生は三谷祐一郎先生、5年生は西田友久先生です。学生を最も近くで見守り相談できるベテランの先生方です。ご家庭と担任の先生の連絡を

密にして学生の成長にご協力いただきますようお願いいたします。

6月には前期中間試験が実施されました。成績をご覧いただき、これからの学修の取り組みと将来の進路について相談する機会としてください。クラス担任の先生からすでに指導があったと思いますが、早期に再評価科目の合格を得てください。再評価科目は昨年度またはそれ以前に不合格になっている科目であり、この分野の知識の定着と理解が不足していることを示しています。将来、エンジニアで活躍するためには必要な科目ですので、努力して合格してください。

教員の移動を説明します。永禮哲生先生が静岡大学に内地留学されて、研究活動に専念され成果を積み上げられています。松田伸也先生が香川大学に転出されました。新たな環境で研究・教育活動に取り組まれています。同居支援プログラムに基づき東京高専から喜多 和先生が着任されました。放射能物質の除去を目的とした、マイクロ流体デバイスに関する研究をされています。機械工学実験、工業英語、卒業研究の科目をご担当いただきます。新たな環境において教育・研究活動を遂行されることに加えて、学生指導に尽力いただけるものと期待しています。

学生の進路希望の実現に向けて、今年度も教育活動を推進していきますので、どうぞ、ご支援・ご協力をお願いいたします。



一步前に踏み出す勇氣

電気電子工学科長

野毛 悟

学科長を拝命しております野毛です。今年度もよろしく申し上げます。

電気電子工学科では、41名の新入生、4年生に1名の編入学生、3年生には留学生（モンゴル出身）を1名迎えました。現在、当学科には206名が在籍しています。

担任等の体制ですが、5年担任は本校のOBの西村教授です。主に進学指導を担当します。就職指導は昨年引き続き望月教授です。4年担任の眞鍋准教授は、生活支援室長のご経験もあり、4年生にとって大変心強い存在ではないかと思えます。3年担任の高矢講師は、昨年度2年の回路理論を通じて学生個々を良く知っており適任者です。2年副担任の望月教授は企業から期待される高専学生像をよくご存知で、低学年から挨拶、礼儀や生活習慣の大切さを指導します。1年生副担任として最も若い山之内助教に奮闘してもらいます。どのようなことでも構いませんので、ご心配やご相談がございましたら、まずは担任にお声かけ下さい。

4月中旬に恒例となっている学科ガイダンスを新入生か

ら5年生に対して行いました。学科ガイダンスでは、学科の特徴と教育内容、社会からの期待の大きさとそれに応える心構えをお話ししました。各自の目標と夢の実現に向かって努力を惜しまないでもらいたいと強調しました。最近の学生はcleverで、結果を先読みし「失敗」を恐れるあまり「一步前に踏み出す勇氣」が足りないように感じます。我々は若い学生の可能性を信じて止みません。人と同じでなくても、今はまだ結果が出なくても「一步前へ踏み出す勇氣」を持ち続け、日々の努力を継続することが最も重要な技術者スピリットの1つであると伝え続けたいと思います。

就職や進学活動について近況をご報告致します。5年生は36名（うち3名が留学中）です。就職希望者は18名、進学希望者は15名となっています。就職における求人状況は引き続き極めて良好であり、4月末で160社以上からの採用担当者の訪問を受けました。学科ではきめ細かい指導により準備を整えております。就職活動は順調に進行しており、就職希望者全員が内定を頂けると考えております。進学も例年通り編入学出願の手続きが本格的に始まっています。各自が目標に向かってしっかりと努力し、こちらも好結果を出してくれることと期待しています。

最後に、教育の改善と一層の充実を図るため教員一同全力で取り組んでおりますので、保護者の皆様の変わりぬご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



新年度にあたって

電子制御工学科長
鄭 萬 溶

今年度から電子制御工学科長を務めさせていただくことになりました鄭（ジョン）です。よろしく願い申し上げます。

今年度は、新入生を41名迎え、本科生213名でスタートしました。担任は1年生から順に、住吉（教養科物理）、西垣（教養科数学）、大林、大沼、そして5年生が遠山です。また、1年生と2年生の副担任はそれぞれ小谷と川上が務めます。

年度当初2年生の担任は、教養科数学担当の佐藤志保先生でしたが、5月1日に研究室で倒れられ、ご逝去されました。故人のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表しますとともに、安らかにご永眠されますようお祈りいたします。

4月21日と22日の両日には、新入生オリエンテーションが国立中央青年の家（御殿場）で実施されました。初日は教務と学生生活に関する学年全体の研修とオリエンテーションがあり、2日目は各学科に分かれて学科別研修を行いました。学科別研修の冒頭に私の方から学科の教員紹介、カリキュラムと単位、心構え、学習法などについて話をしました。緊張した面持ちの中、熱心に耳を傾けてくれましたので、今後を楽しみにしております。学科別研修の後半は両親や中学校の恩師に手紙を書いてその日のうちに発送したようです。

5月2日には、1年生だけを対象とした授業参観とクラス懇談会が実施されました。多くの保護者の方々に来ていただき、大変ありがとうございました。折角ですので学科長にも少しお時間をいただき、学科の運営方針や

進路指導について話をさせていただきました。早い段階で保護者の皆様に学科について少しでもご理解いただくための時間を設けられたので非常によかったと思っております。これからも是非学科運営にご協力とご理解いただきますようお願い申し上げます。

今年度の学科運営の方針としては、留年・退学者対策、学生確保対策を優先的に進めていきたいと考えています。また、若手の先生たちを中心に学科の将来計画とカリキュラムについて検討を始めています。専攻科が1専攻3コースに改変され複合融合領域への方向性が強化されたことに合わせて他学科との差別化できる特色を出していきたいと考えております。さらに、グローバル化社会に通用するエンジニアを育成していくため、学生たちに国際交流や海外留学プログラムへの参加を奨励していきたいと考えております。昨年度の実績としては、シンガポールで実施された「高専生のための英語キャンプ」に4年生2名、筑波大学とインドネシアで開催されたJSTS/ISTSに専攻科1年生1名、クモ工科大学短期留学に専攻科1年生1名を派遣しています。また、ニュージーランドのオークランドのNzlcにて実施される「夏季語学研修&異文化体験」には、22名の内、電子制御工学科から9名の参加希望が出ております。これからもこのようなプログラムへの参加を促していきたいと考えておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、現在までの5年生の状況についてお知らせします。本年度の5年生は45名で、休学して語学留学中の1人を除くと、就職と進学がちょうど半々ずつになっています。進学希望者のうち、13名は専攻科を推薦で受験することになりました。大学と専攻科の併願が2名、大学のみ受験が7名となっています。就職希望者も同じく22名で現在順調に活動を行っております。これからも電子制御工学科教員一同教育の改善と充実を目指して頑張っておりまして、保護者の皆様の変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



自主性を育む教育を目指して

制御情報工学科長
芹 澤 弘 秀

前任の藤尾教授から学科長を引き継ぎました芹澤です。どうぞよろしくお願い申し上げます。制御情報工学科では、3月に49名（就職20名、進学29名）の卒業生を送り出し、4月には1年次新入生41名と4年次編入生1名を迎えて新年度がスタートしました。新入生・編入生の皆さんには早く学校に慣れてもらい、夢の実現に向けて充実した高専生活を送ってほしいと願っています。2～5年生の皆さんも個々の目標が達成できるよう学力のみならず人

間力も高め、日々精進することを期待しています。

本学科では現在、大久保准教授が在外研究員としてアリゾナ大学（米国）において光計測に関する研究テーマで研修中のため、教員10名の体制となっています。5年担任は3年連続となるベテランの長谷教授（進学指導担当）、4年担任は企業経験豊富な長縄教授（5年就職指導も兼任）、3年担任は学生思いの横山准教授が担当しています。また、吉野教授と藤尾教授にはそれぞれ2年と1年の副担任をお願いしています。勉強のこと、将来のことなどで悩みがある場合は、担任・副担任・学科長に気軽に相談ください。また、今年度の就職・進学の状況ですが、例年と同様、就職よりも進学希望者の方が多くなっています。就職については3月中に内々定の感触を得た学生もおり、順調な滑り出しとなりました。

さて、本校の学生が非常に優秀であるということは企

業の方や大学の先生方から良くお聞きするのですが、「自主性が無い」とか「主体的に行動できない」などのご意見を頂くこともあります。5年間の過密な授業や高校のような指導体制では大学に比べて自主性・主体性が育たないのもやむを得ないのかもしれませんが。そこで本学科では、「自主性を育む教育の実施」を今年度の目標の1つに掲げました。具体的には、例えば高学年クラスでは学生自らが自治組織を形成してクラス運営を行うというものであり、担任はできる限り口出しせず、与え過ぎず、最低限の要望のみを事前に伝えておくだけです。学生はリーダーを中心として何が必要かを考えて組織的に行動し、

問題発生時はその原因を分析して改善します。昨年4年生で試行したところ、週番業務に様々な工夫・改善が見られたり、行事への参加姿勢に積極性が見られたりするなど、学生たちの行動には目を見張るものがありました。今年度も環境さえ整えば、もともと優秀な学生たちですから自らその芽を伸ばしてくれるものと期待しています。ただ、失敗したときに大目に見る寛容さも自主性を育むためには大切な要素であると考えます。

最後に、本学科教員一同、全力で学生指導にあたっていきますので、今年度も保護者の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。



新たな年度を迎えて

物質工学科長
大川 政 志

本年度、物質工学科長を拝命しました大川です。よろしくお願いいたします。

物質工学科の新年度は4月4日に挙行された入学式で新入生とインドネシアからの留学生を迎えて始まりました。本年度の物質工学科の現員は1年生42名、2年生43名、3年生43名、4年生45名、5年生43名、総勢216名となり、昨年に比べると若干減少しています。40名強のクラスが多くなり教員の目がより学生に届くのではないかと期待しています。近年、学科の女子学生の割合が高まっており、全体では42%を占めています。特に本年度の新入生では女子の人数が男子より1名多くなり50%を超えました。

教職員の動向をお伝えします。昨年度、人事交流で物質工学科に在籍された高田陽一准教授は宇部高専へ戻られ、本年度は11名の教員で学科運営を行うこととなります。3月に定年を迎えられた鈴木猛技術職員は、再雇用契約で学校に残っていただけることになり、物質工学科の実験実習に協力をしていただけることになっています。

教育内容につきまして、昨年度より学生実験体制を変更した新カリキュラムが始動しています。2年生が新しい実験カリキュラムと新設された専門科目の生命科学、物質工学演習の履修を今年から始めます。新カリキュラムでは、実験技術の基礎を身につけるとともに、基礎的科目や演習によって基礎学力の補強を行うことを目指しています。

学生の進路に関しまして、企業からの求人数が多い状況であり、就職希望学生は就職担当の後藤教授の指導のもと希望する企業の採用試験に挑んでおります。一方、進学希望者は、学科教員の協力を得ながら5年生担任の藁科准教授の指導のもと専攻科入試、大学編入に向けて準備を行っております。

先ほども述べましたが今年は女子の多い物質工学科です。喜ばしい反面、高学年になるにつれ女子の成績不振者が目立つのも事実です。そのような学生達はひたすら覚える学習を行っているようです。覚える学習から一歩進んだ理解する学習に切り替わってもらいたいと低学年の学生を中心に目をかけております。学習法の切り替えは、指導以上に学生の実行が必要だと考えますので進んで学習改善を行うことを願っております。

学科長に就任したばかりで至らぬことも多いかと思いますが、精一杯努める所存です。本年度も物質工学科へのご理解とご協力をお願い申し上げます。



失敗を恐れずに挑戦を

教養科長
佐 藤 誠

新年度がスタートしました。今年度も教養科長を務めることとなりました。どうぞよろしくお願いいたします。教養科教員の主な任務として、本校1、2年生の学生指導（クラス運営）があげられます。今年度は、1年部、2年部ともにクラス担任を兼務する学年代表（1年部は

住吉光介先生、2年部は西垣誠一先生）と4名のクラス担任および専門学科から配置された5名の副担任でクラス運営を行っていきます。今年度から1年生は混合学級を廃止し、学科別のクラスになりました。学科別クラスの編成は、早期専門教育のメリットを生かすことと1年生から各専門学科への帰属意識を高めていくことを主な目的としています。これらの目的をしっかりと認識し、専門学科との連携を密に取りながらクラス運営をしていきたいと考えております。

教養科では、本年度1名の新しい先生をお迎えしました。哲学を担当する大橋正則先生です。大橋先生は数理論理学を専門としていて、哲学のみならず多様な経験を

お持ちになっております。それらの経験を本校教養科での教育に生かしていただけることと思います。大橋先生を迎え、総勢24名の体制で学生の教育に努めてまいります。

さて、学生諸君には自分の得意分野でいろんなことに挑戦してもらいたいと思います。たとえば、数学が得意な学生は数学オリンピックにチャレンジしてみるとか。数学を知らない私がこんなことを言うと、先生は数学を知らないから無理だということがわからないと言われてしまいそうですが、無理と決めつける前にやってみればと私は思います。取り返しのつかない失敗はダメですが、

そうでなければ失敗しても良いのではないかと思います。失敗を恐れて挑戦をあきらめるよりは、挑戦して失敗することの方が身になることが多いと思います。学生諸君には失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦してほしいと思います。私たち教養科の教員も専門学科の教員と連携を取りながら、学生たちがいろいろなことにチャレンジできるような環境づくりをしていきたいと思います。そのためには、保護者の皆様とのコミュニケーションも重要になります。些細なことでも担任に相談していただければと思います。今年1年間、保護者の皆様のご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成29年度 人事異動について

発令日付	氏名	異動の内容	旧職名等
平成29年3月31日	勝山智男	定年退職（嘱託教授に再雇用）	教授（教養科）
	笹原正和	定年退職（嘱託講師に再雇用）	講師（教養科）
	小柳敦史	辞職	准教授（教養科）
	松田伸也	辞職	准教授（機械工学科）
	江間敏	再雇用期間満了退職	嘱託教授
	大山正人	定年退職	事務部長
	鈴木猛	定年退職（一般職員（技術室）に再雇用）	技術室技術長
平成29年4月1日	黒田一寿	東京工業高等専門学校に配置換	准教授（教養科）
	高田陽一	宇部工業高等専門学校に配置換	准教授（物質工学科）
	大橋正則	准教授（教養科）に採用	
	喜多和	講師（機械工学科）に配置換	東京工業高等専門学校 講師（機械工学科）
	青山陽子	教授（物質工学科）に昇任	准教授（物質工学科）
	村松直子	准教授（教養科）に昇任	講師（教養科）
	横山直幸	准教授（制御情報工学科）に昇任	講師（制御情報工学科）
	山根説子	准教授（物質工学科）に昇任	講師（物質工学科）
	宇野裕之	八戸工業高等専門学校学生課長に配置換	学生課長
	杉浦利勝	事務部長に採用	山梨大学人事課長
	八木正行	学生課長に配置換	高専機構本部管理課長

平成29年度 校務分掌

区 分	氏 名	職 名
校長	藤本 晶	校長
副校長(教務主事)	小林 隆志	教授
校長補佐(学生主事)	芳野 恭士	教授
校長補佐(寮務主事)	小林 美学	教授
校長補佐(専攻科長)	高野 明夫	教授
環境エネルギー工学コース長	遠山 和之	教授
新機能材料工学コース長	小村 元憲	准教授
医療福祉機器開発工学コース長	横山 直幸	准教授
教養科長	佐藤 誠	教授
機械工学科長	村松 久巳	教授
電気電子工学科長	野毛 悟	教授
電子制御工学科長	鄭 萬溶	教授
制御情報工学科長	芹澤 弘秀	教授
物質工学科長	大川 政志	教授
図書館長	遠山 和之	教授
総合情報センター長	宮下 真信	教授
総合情報副センター長	三谷祐一朗	教授
総合情報副センター長	鈴木 康人	准教授
情報システム管理部門長	青田 広史	技術専門員
情報教育部門長	鈴木 康人	准教授
情報化推進部門長	宮下 真信	教授
地域共同テクノセンター長	稲津 晃司	教授
地域共同テクノ副センター長	山崎 悟史	准教授
地域共同テクノ副センター長	大林 千尋	助教
地域連携部門長	山崎 悟史	准教授
研究支援部門長	大林 千尋	助教
知的財産部門長	稲津 晃司	教授
教育研究支援センター長	佐藤 憲史	教授
教育研究支援副センター長	山中 仁	准教授
教育研究支援副センター長	横山 直幸	准教授
学習サポートセンター長	大庭 勝久	准教授
学習サポート副センター長	松澤 寛	准教授
キャリア支援センター長	芳野 恭士	教授
キャリア教育委員会委員長	長縄 一智	教授
COOP教育委員会委員長	川上 誠	教授
就職支援委員会委員長	長縄 一智	教授
広報センター長	小林 隆志	教授
出版委員会委員長	井上 聡	准教授
広報委員会委員長	小林 隆志	教授
授業改善支援センター長	藤尾三紀夫	教授
E-learning推進委員会委員長	三谷祐一朗	教授
Active learning推進委員会委員長	嶋 直樹	准教授
国際交流センター長	藤本 晶	校長
留学生支援委員会委員長	小林 美学	教授
海外交流委員会委員長	大久保清美	教授
環境安全センター長	後藤 孝信	教授
環境保全委員会委員長	芳野 恭士	教授
毒劇物管理委員会委員長	後藤 孝信	教授
組換えDNA実験安全委員会委員長	古川 一実	准教授
動物実験委員会委員長	芳野 恭士	教授
安全衛生委員会委員長	小林 隆志	教授
技術室長	佐藤 憲史	教授
学生生活支援室長	鈴木 久博	教授
特別課程運営室長	川上 誠	教授
特別課程運営副室長	鈴木 尚人	准教授

学科・学級	担任氏名	職 名	副担任氏名	職 名	
機械工学科 (M科)	1年	成田 智子	准教授	前田 篤志	助教
	2年	芳賀多美子	准教授	鈴木 尚人	准教授
	3年	◎山中 仁	准教授	-	-
	4年	三谷祐一朗	教授	-	-
	5年	西田 友久	教授	-	-
電気電子工学科 (E科)	1年	佐藤 崇徳	准教授	山之内 亘	助教
	2年	村上 真理	准教授	望月 孔二	教授
	3年	高矢 昌紀	講師	-	-
	4年	眞鍋 保彦	准教授	-	-
	5年	◎西村 賢治	教授	-	-
電子制御工学科 (D科)	1年	◎住吉 光介	教授	小谷 進	准教授
	2年	◎西垣 誠一	教授	川上 誠	教授
	3年	大林 千尋	助教	-	-
	4年	大沼 巧	准教授	-	-
	5年	遠山 和之	教授	-	-
制御情報工学科 (S科)	1年	松澤 寛	准教授	藤尾三紀夫	教授
	2年	村松 直子	准教授	吉野龍太郎	教授
	3年	横山 直幸	准教授	-	-
	4年	◎長縄 一智	教授	-	-
	5年	長谷 賢治	教授	-	-
物質工学科 (C科)	1年	黒澤 恵光	講師	後藤 孝信	教授
	2年	澤井 洋	准教授	青山 陽子	教授
	3年	大島 一真	助教	-	-
	4年	古川 一実	准教授	-	-
	5年	藁科 知之	准教授	-	-

※◎は学年代表

教 科 主 任	氏 名	職 名	備 考
国語	小村 宏史	准教授	
社会	佐藤 崇徳	准教授	
数学	遠藤 良樹	教授	
物理	住吉 光介	教授	
化学	小林 美学	教授	
体育	渡邊志保美	准教授	
英語	村上 真理	准教授	
ドイツ語	大久保清美	教授	

委員会名	役職名	氏 名	職 名	備 考
企画運営委員会	校長	藤本 晶	校長	
	教務主事	小林 隆志	教授	
	学生主事	芳野 恭士	教授	
	寮務主事	小林 美学	教授	
	専攻科長	高野 明夫	教授	
	事務部長	杉浦 利勝	事務部長	
	委員	大久保清美	教授	
	〃	川上 誠	教授	
〃	長谷 賢治	教授		



平成29年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	顧 問 教 員 名 (☆は連絡責任者)				
陸上競技部	☆松本祐子	渡邊志保美	鈴木静男		
ソフトテニス部	☆村上真理	佐藤崇徳	平田陽一郎		
バレーボール部	☆成田智子	大庭勝久	長澤正氏		
バスケットボール部	☆遠山和之	青山陽子	鈴木久博		
野球部	☆前田篤志	横山直幸	大島一真	大久保清美	大橋正則
卓球部	☆芳賀多美子	黒澤恵光	稲津晃司	高野明夫	
柔道部	☆松澤寛	西垣誠一			
剣道部	☆澤井洋	新井貴司			
サッカー部	☆望月孔二	長縄一智	駒佳明	山之内亘	
ラグビー部	☆井上聡	鄭萬溶			
体操部	☆佐藤誠	後藤孝信			
水泳部	☆新富雅仁	大澤友克	遠藤良樹		
合気道部	☆長谷賢治	宮下真信			
テニス部	☆竹口昌之	西田友久	小村元憲	川上誠	
スキー部	☆嶋直樹	小谷進			
ハンドボール部	☆野毛悟	高矢昌紀			
弓道部	☆佐藤憲史	芳賀多美子	小村宏史		
空手道部	☆芹澤弘秀	眞鍋保彦			
バドミントン部	☆牛丸真司	藤尾三紀夫	古川一実		
トライアスロン部	☆三谷祐一朗	鈴木尚人			
吹奏楽部	☆藁科知之	山根説子	松澤寛	山中仁	
囲碁将棋部	☆山崎悟史	西垣誠一			
ロボコン部	☆青木悠祐	大林千尋	川上誠		
天文部	☆大川政志	住吉光介			
同好会(理工系)	☆村松久巳(機)	☆鈴木康人(プ)	☆鈴木正樹(数)	☆大津孝佳(知)	
同好会(芸術系)	☆村松直子(合)	長澤正氏(合)	☆吉野龍太郎(軽)	☆西村賢治(大)	
	(☆芳野恭士(茶))	☆藤井数馬(E)	☆大沼巧(ア)		

同好会(理工系):機械工学・プロコン・数理・知財

同好会(芸術系):合唱・軽音楽・大道芸・茶道・ESS・アカペラ

着 任 挨 拶



どうぞよろしく
申し上げます

機械工学科
喜 多 和

はじめまして、機械工学科の喜多和と申します。沼津高専に着任する前までは民間会社で技術者として約10年経験を積みました。そこで女性ではじめて技術士（機械部門）を取得し、東京高専にて教員となりました。出産をきっかけに育児支援プログラムの一環で沼津高専に参り、育児では両親の力も借りながら実家から学校に通っております。

教員になった理由は、これから技術者となろうとする若い学生の教育に尽力し、優秀な技術者を世の中に送りたいと思ったからです。

民間会社で勤めていたときは、治水・利水用の機械設備が専門でした。国土交通省が管理する全国8,000以上の設備を統括する今後50年に関する計画を立てていたとき、少子高齢化が深刻な影響を与えることを目の当たりにしておりました。また技術士会の修習技術者支援委員会の委員をしており、常日頃若い技術者がどうすれば成長するかを考えておりました。

そんな矢先、2011年の東日本大震災の被害の大きさを

見て、国土を守る者としての何かをせずにいられませんでした。そのひとつに私一人技術者として努力するより、学生を優秀な技術者に育て、その学生が将来社会で活躍することが、よりよい社会の構築につながると考え、教員の道に進みました。教員となった今は、学生に在学中にできるだけ多くのことを学んで欲しいと願い、どうしても学生がより育つのか考える毎日です。

技術者としての経験を通して教育者を見てみると、自分自身の経験や行動全てが教育者として反映されるのだと感じております。たとえば、出産・育児の経験を通し、学生を見る目が変わりました。成人した学生であっても、生まれた時の儂かった小さな手の中に無限の可能性を思い、みんなでサポートしていることを実感しています。我が子を健康に育てることだけでも大変なので、こんなに大きく育てて下さった保護者の方々に尊敬と感謝の念が湧いてきます。

沼津高専では学生皆さんが日々経験を積み上げ成長し続けていることがよくみえ感心しております。迷うことも、うまくいかないことも、そのものが人生であり、学生の気持ちを考え、心に寄り添い、見守り、応援したいと思っております。学生がより大きな成長ができるように私自身が適切な言葉かけをするよう努め、学生の洞察力を深めるために教育・研究等、日々研鑽を積んで参りたく存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



高専教員としての抱負

教養科
大 橋 正 則

本年度から教養科の哲学と経済学担当教諭として着任いたしました大橋正則と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

私は埼玉県生まれで地元の公立小・中学に通い、慶應義塾高校（神奈川県）に入学、高校では理系クラスでした。経済学部と理工学部を卒業、東京工業大学大学院で数理論理学を専攻しました。博士課程まで在学し、高校の数学の講師等を経てこちらにご縁をいただきました。

よく「専門は何ですか？」と聞かれて説明に困ることがあります。

本校の教育理念の中に全人教育ということばがあります。私の今までの経歴は、科学・技術・理論・人間性・社会性の統一、まさしく“全人教育”の実現がテーマであったと思います。私は、人文系科目で取り扱われる分

野を、理工系の人たちがどのように扱うか、また、人文系専攻の人たちが理工系専攻の人たちとどのように交わるか、ということに関心を持ち、研究してきました。

歴史的に工業を中心とした産業が発達する時期には、「実学」にさまざまな形で積極的に投資が行われます。その後、産業・工業の分野から法律・経済など人文系分野への「エリート」のシフトが起きます。明治維新期の日本は技術と同時に、科学、そして思想や政治制度なども採り入れました。しかし、比較的すぐに法学を中心とした官僚に社会の中心が移っていった経緯があります。

その中で高専は創立以来、長い期間にわたり、優秀な技術者を輩出し続けております。優秀な技術者は社会の要です。これからも高専で学び卒業していく人たちに活躍し続けてほしいと願っております。高専にいらっしゃる先生方はとても優秀な方がそろっており、学生も志を持ち、能力も備えた人たちが集まっています。

教養科目はその技術と社会を結びつける働きがあります。高専での5年間という限られた時間の中で、高い技術を身につけながら、さまざまな「教養」を身につけてもらうために教養科の先生方が、多くの工夫をしています。私も、ここに参加させていただき、自身が成長する

ことで、学生たちに学び続ける姿勢を示していきたいと思えます。

まだ、慣れないことばかりで、うまく力を発揮できな



大きな光を宿した 若者たち

事務部長

杉浦利勝

本年4月1日付け事務部長に就任いたしました。前任地は甲府市にある山梨大学に勤務しておりました。私と沼津高専とのつながりは平成16年4月の高専機構本部勤務から始まります。当時、ユニバーサル技能五輪国際大会が静岡県で開催されることが決まり、その対策会議に参加させていただきまされたとき、沼津高専が如何に地元の皆さんから大切にされているかを改めて認識し直したことが思い出されます。高専の目的は、将来を担う若き優秀なエンジニアを育て送り出すことですが、専門教育を若年から行う教育システムが大きな特徴であり、わが国の高等教育における大学教育に相対するもう1本の教育の柱となっています。わが国は急速な高齢化とともに、

いこともありますが、1日も早く高専でみなさまのお力になれるよう努力してまいりますので、これからもよろしくお願いたします。

少子化、技術の伝承、後継者不足など、お家芸であるものづくりの将来を懸念する声があります。しかし、終戦後の焼け野原からの奇跡的な復興・高度経済成長、バブル崩壊後の長期不況からの復調しつつある状況をみれば、何時の時代も日本人は、世代を重ねて沢山の困難を乗り越えてまいりました。今も沼津高専では、次世代を担う大きな光を宿した若者が懸命に勉学に励んでいます。この若者たちが社会に旅立ち、新たな道を開き日本の将来・世界の将来を築いてくれることを信じてやみません。国の財政事情から学校の運営資金は毎年削減されており、この状況が今後も続くこととみられることから財政上の大きな不安もありますが、KOSEN4.0をはじめとして新たな取り組みも始まりました。どのような困難な事情があっても、学生のみなさんの学修や研究活動を如何に向上させるかということが目的の中心にあることは間違いのないことであります。藤本校長のもと教職員一丸となって乗り越えて参りたいと思っておりますので、今までに増してご理解ご支援賜りますようお願い申し上げます。



11年ぶりに…

学生課長

八木正行

本年4月1日付けで事務部学生課長として着任しました八木正行と申します。

私は、昭和55年に沼津高専に採用されてから、国立遺伝学研究所へ出向したほかは、沼津高専へ長く勤め、40代半ばに高専機構本部へ転勤しました。それから、静岡大学、名古屋工業大学を経て、再度高専機構本部にて勤務し、このたび11年ぶりに沼津高専へ帰ってまいりました。

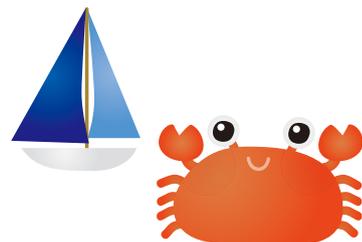
もともと、沼津高専を離れるときは、大学等他機関で経験を積んだ後、その経験を沼津高専で活かしたいと考えておりましたので、今回の異動は私にとって非常に喜ばしいできごとでした。

10年は一昔といいますが、11年前とは学校の様子もかなり変わってまいりました。専攻科（3専攻）が総合システム工学専攻に改編されたこと、カウンセラーの充実や学習支援（FUJI CAFÉ、礎塾、学寮マテカ）等学生サポート体制が向上していること、国際交流事業や地域社会・産学連携事業がより盛んになっていることなど、数々の積極的な取組みに感心するとともに、今後も引き続き教

育研究や管理運営に関する課題対応が進んでいくと思っておりますが、このような仕事の一端に携われることにやりがいを感じております。

一方で、本年3月29日に文部科学大臣から中央教育審議会へ大学設置基準等の改正について諮問がなされ、高等専門学校も大学と同様に「教員と事務職員等の連携及び協働」に関する改正が予定されています。沼津高専では、既に教職員が一丸となって課題解決に向けて取り組んでおりますが、今後の関係諸規定整備を受けて、事務職員の役割もより重要になってくると思われま。

このような中で、日々の業務に献身的に取り組んでいる学生課職員の皆さんと互いに切磋琢磨しながら、個人の健康に留意しつつ各人のスキルアップの向上に努め、課の仕事力を一層高めることで、沼津高専の更なる発展に向けて、微力ではございますが尽力してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。



新入生から（入学にあたり）

忘れないでね。4年後の自分へ

電気電子工学科1年 中村 晃 盛

幼い頃、パソコンの中を見たときに、緑色の板の上に数え切れないほどの部品が付けられた町のように見える基板に、言葉にできないような感動をした。そのときから電子機器に魅了されて、機器を見つけては、じっと眺めた。そして飽きると、分解できるところまで分解をしていた。そんなことをしているうちに電子機器が好きになり、今やこんなマニアックな学校へ入っている。

今、自分の周りには多くの電子機器がある。それら1つ1つは「笑顔」という素敵なものを創ることで、この国を支えているのだと思う。言い方を変えれば、電子機器を作る技術者が社会に「笑顔」を創っているのかもしれない。そのことを考えると、技術者という仕事はとても素晴らしく、誇り高いものだと思う。

僕は昔から人を「笑顔」にすることが好きだ。だから、友達を笑わせようといつも自分なりに面白いボケをしている。でも、そのボケは友達が笑うどころか体が凍りつくほどつまらないようだ。僕はそれを聞くたびに、改良を加えてはボケている。しかし、どんなに改良してもいっこうに面白いボケができない。面白いことができる人は昔からそういう才能があるから面白いのであって、僕にはその才能はない。どうしたらいいか考えていた僕は、スマホで楽しそうに遊んでいる兄を見た。そのときに「自分の好きな電子機器を作り、人を喜ばせて『笑顔』にで

きたら、Win-Winだな」そう思った。これこそ僕が電気を勉強し技術者になると決めた理由であり、技術者としての原点だ。このことは自分の原動力・目標として覚えておいてほしい。

僕がなりたい技術者は1つだ。「人々を『笑顔』にして、社会を明るくすることができる技術者」であり、それ以外にはありえない。

人を「笑顔」にするものを作るのは簡単なことではない。だから、今という時間を大切にして必死に勉強することで、少しでも良い技術的発想ができるように頑張りたい。だから、4年後も道を踏み間違えないように前を向いてほしい。



新入生宿泊研修（オリエンテーリング）

5年間の目標

電子制御工学科1年 大竹 葵

私が高専のD科を選んだのは、ロボットを作りたいからです。小学生のときにテレビでロボコンを見て凄く憧れました。中学生で学力を上げ、高専という選択肢がでたことで、私は高専を選びました。D科を第1志望にしたのもホームページを読んだりしてどうしても卒業研究やその他の授業でロボットを作りたいと思ったからです。ロボコン部に入って、授業以外でもロボットを作り、動かしてみたいと思ったからです。私は、モノを作ることが好きで、小学校、中学校では図工、技術が好きでした。ですが得意というわけではありません。だから高専では、モノづくりを専門に学び、卒業する頃には自分の理想とするロボットを作りたいです。そのため今、作ること、制御をすることができるようになるた

めに、専門分野の勉強も頑張りたいです。将来、エンジニアとして日本を代表する技術者になることが夢です。私たちの生活を陰ながら支えてくれるようないろんなロボットを開発することができたら凄く楽しいと思います。人の仕事をうばっていくようなロボットではなく、危険なことをしてくれて、人には到底できないようなことをしてくれる、そんなロボットが私の理想です。今はまだ遠く感じるのですが、それらを実現させるために5年間頑張ろうと思います。

最後に、今考えている中で私が作りたいロボットは大きく分けて2種類あります。1つは、世の中の求めているモノを自分の思ったように作る産業用ロボット、2つ目は、高齢者や幼児のお世話、話し相手をしてくれるような人工知能と人の役割を合わせ持った、アシモのようなロボットです。これらの2つや他のモノも作りたいので、技術者になれるように、また、はやく自分の手でいろいろなモノを作れるようになるために今から頑張ります。

沼津高専と寮

制御情報工学科1年 軒田佳林

入学前の私は、これからの生活に胸を躍らせていました。しかし、いざ入ってみると90分という慣れない授業、周りに知っている友達がいないう状況は不安でいっぱいでした。

けれど、そんな不安を減らしてくれたのは寮生活でした。始めは長時間に続くミーティングで大変でしたが、そのおかげで1年生同士の仲をすぐに深める事が出来ました。また、先輩方と話す機会も増え、寮生活に少しずつ慣れる事が出来ました。なにより、今年から全学科混合のクラス編成から学科別のクラス編成に変わった事で他の学科と関わる機会が減ってしまいましたが、寮は唯一、他の学科と関わる場所になりました。

そして私は寮と学校での目標が出来ました。

まず寮では、周りをみれる人になる事です。寮生活は1人ではありません。今までは親がなにかもやってくれていたのが、自分の事は自分でやらなければなりません。また、それ以上に共同生活の中で誰かがやらなければならないこともあります。人に任せるのではなく、自ら率先して出来るようになりたいです。

次に学校では、中学と違い、週に1回だけの授業がほ

とんどになりました。1週間前の授業を思い出す事はとも難しいです。そのため、自習をして覚え直さないと授業内容を忘れてしまいます。部活もあり、寮の行事のスタッフ活動もありと、なかなか自習をする時間は少ないですが、合間を見ついたり、分からない事は先生や友達に聞いて点を取るだけの勉強ではなく実力のつく勉強をしていきたいです。

寮がある事で先輩方に分からないところは教えてもらえたり、同級生同士も仲良くなりました。寮と学校の中で伸びる事はたくさんあります。将来、知識と実力のある技術者になるために努力を続けていきたいです。



新入生宿泊研修（入所式）

卒業生から



多様な経験を通じて、 いま想うこと

工業化学科
(現 物質工学科) 3期
吾妻 まり子

1973年に沼津高専を卒業し、既に44年もの年月が流れたことを感慨深く思っている今日この頃である。昨年は学科設立50周年の節目を迎え、記念講演会で私の経験に基づいた話をして頂いた。

入学当時の高専は全校生徒800名のうち女子学生は僅か5名、同級生はたった1名というまさにマイノリティーの存在だった。時に窮屈で自意識過剰となり、決して明るい青春時代ではなかったと思っている。しかし、だからこそ、自分は特別なのだというある種の自負もあったことは事実である。

私は中学生の頃から「なりたい女性像」をぼんやりと描き、「平凡な人生は送りたい」という想いを強くしていた。この気持ちが当時女性があまり選択しない高専

を受験したことに繋がっている。

高専では高校に比べて幅広い分野を学ぶことができた。大学と同等の恵まれた環境で学生生活を送れたと思っている。しかし、中学時代の「理数系が得意」というプライドは大きく崩れ、4年に進級する際には別の道に進むことを真剣に考えたが、踏み切る勇気も自信もなかった。

そんな学生時代を経て(株)リコーに入社したが、私はこの時にこれまでの自分（自信喪失した自分）を引きずらず、「新しい自分をつくるチャンス」と捉えた。当時、会社でも女性技術者は少なく、私は沼津事業所で環境関連の仕事に就いた。沼津事業所はリコーの化成製品事業の生産拠点であり、私のキャリアのスタートは工場から出る排水や排ガスをサンプリングし、実験室で分析するという非常に地味な仕事だった。その後、自ら希望し技術者からスタッフへの道を歩み、様々な改革プロジェクトを推進した。

男女雇用機会均等法もない時代に入社し、しかも、ものづくりというまさに男社会の環境の中で、昇給や昇格は明らかに男性優位の現実を痛感し、頑張っても報われない悔しさで落ち込むことも多々あったが、「会社を辞めること＝逃げる」という想いで、現実を受け入れ、

担当したテーマで成果を出すべく一生懸命取り組んできた。

そんな仕事ぶりを評価してくれる上司に出会い、管理職昇格の第一歩は男性より大幅に遅れたが、その後の社会環境の変化も追い風となり、10年前に東京本社に異動し、CSR（企業の社会的責任）や人材戦略、CS（顧客満足）など様々なコーポレート機能を経験し、生え抜き初の女性役員として長きに渡ったりコー人生を終えることができた。

これまでを振り返って

機械工学科39期 見城 健太

私は機械工学科を卒業し、(株)リコーという会社で働いて13年目となります。入社後、トナー製造設備の設備保全、生産技術開発の部署を経験し、現在は設備設計の部署にいます。

これまで、各部署で様々な技術が必要となり、社会に出てからも勉強し続けています。会社での専門分野に特化した勉強では、高専で幅広く学ぶよりも効率が良く、必要な部分だけを学ぶことができています。

しかし、新入社員だった頃を振り返ると、高専で学んだ基礎知識が役に立っていました。基礎知識を知っていることで仕事を任せられ、基礎知識を学んでいたことで専門知識の理解を助けることに繋がっていました。今でも、旋盤やフライスを使ってちょっとした試作品を内作したり、3次元CADでモデルを作り熱流体解析をしたりするとき、高専で学んだ設計製図・流体力学・熱力学などの基礎知識を活用しています。

また、私は「倒立振子の自動制御」を卒業研究テーマ

私の会社生活は最初から順風満帆というものではなかったが、「なりたい女性像」「自分がどんな人生を歩みたいか」を描いていたことが自分の成長の幹にあったように思う。

皆さんも様々な挫折を経験することもあると思うが、そこから逃げずに、自分自身と向き合い、自分がどうなりたいかを自問自答しながら、自分らしい生き方を築いていって頂きたい。

としていましたが、去年、倒立振子の制御アルゴリズム構築経験を生かす機会がありました。馴染みのあるもので例えると、手のひらの上に立てたホウキ（振子）が倒れないように手を動かしてバランスを取り、倒立状態をキープする制御の研究をしていました。その機会（困りごと）とは、トナー製造工程のひとつで、周囲環境に影響を受けてトナー品質が若干変わってしまうことだったのですが、いつも同じ品質でトナーを製造できるよう、周囲環境に応じて製造条件が自動調整される制御方法を構築し、解決することができました。制御については12年間触っていませんでしたが、当時から、この経験をどこかで活用できるのではないかと考えていたためスムーズに問題解決できました。

ここまで勉強と仕事の話ばかりしてしまいましたが、私は高専の囲碁将棋部に入っており、学生時代は将棋に熱中していました。（勉強よりも頑張っていたかもしれません。）今でもよく将棋を指しますが、仕事の疲れが取れ、リフレッシュできていると感じます。

皆さんには趣味ややりたいことはありますか？社会人になっても仕事がすべてではないので、高専のうちから色々なことに興味を持ち、趣味ややりたいことを探してみるのも良いかもしれません。

留学生から

マレーシアからの挨拶

機械工学科3年

ジョシュア・ティオン・シュウ・カイ

東南アジアのマレーシアから来ました。機械工学科の3年生として毎日の勉強に励んでいます。

日本へ来てから、毎日新しいことを学ばされます。特に学校生活のルールを知ることは印象的でした。毎日の生活は楽しく、ここで皆と一緒に過ごす時間は私の1番の宝物になると思います。

沼津高専には優しい人が多く、すぐに友達が出来ました。皆の性格は色々ですが、皆、目的を持って高専に来

ているので、すばらしいと思います。車に興味がある人や色々な知識を学びたい人、部活を頑張っている人など、そんなすばらしい人達と出会ったことで、私の世界観が広がるようになりました。また、生徒だけでなく先生方も優しく、わからない所があればいつもでも教えてくれます。

高専の勉強は少し難しいと思います。レポートは大変で、日本語の補講がある日は6時までかかります。しかし、そんな多忙の中でも部活に打ち込んだり、皆と遊ぶ時間を作ったりと充実した高専の生活を送っています。

日本へ来た時、1つびっくりしたことがあります。それは皆が毎朝「おはようございます」と挨拶することです。私の国では朝の挨拶をあまりしません。挨拶をすることは礼儀正しいことなので、とてもいい習慣だと思い

ます。

私は日本の食べ物が大好きです。特にお好み焼きやラーメンが大好きです。マレーシアの食べ物は辛い物が多く、日本食との間に違いを感じました。

日本に留学することは小学生の頃からの夢でした。私は漫画が好きなので、自然に日本も好きになりました。

こんにちは

電気電子工学科3年
バットトルガ・ダワーフ

皆さん、初めまして。私の名前はバットトルガ・ダワーフです。ダワーフと呼んで下さい。私はモンゴルから参りました。電気電子工学科の3年生です。

モンゴルは中国の北、ロシアの南にある国です。日本と同じように四季があります。モンゴルの気温は最高35°Cから最低-35°Cにもなる激しい気候です。そのためモンゴル人はどんな国に行ってもその国の気候に慣れやすいと言われています。モンゴル人は昔から遊牧民であり、家畜を飼育して生活していました。しかし、1990年からだんだん変わってきました。今は都市には高いビルが沢山建てられており、自動車も多くなりました。モンゴルは安全に生活できる国です。地震や津波などの自然災害もありません。また領土が広いので、さまざまな産業が行われています。

私は今年の3月に来日しました。そして日本の多くの高いビルやきれいな街並みを見て感動しました。また日

セラマト ベルケナラン (よろしくお願ひします!)

物質工学科3年 オンゴノ・スワンディ

皆さん、初めまして、インドネシアから来ました、オンゴノ・スワンディです。ニックネームはワンです。私は1年前に日本に来たばかりなので、まだ分からないことがたくさんあると思います。これから、日本のことについて色々学びたいと思っています。

インドネシアについては知らない人がたくさんいると思いますので、少しインドネシアについて紹介します。皆さんはインドネシアと聞いて、何を思い浮かべるのでしょうか？ 熱い国とかバリ島などと考える人が多いと思いますが、インドネシアはそれだけではありません。インドネシアには多くの特徴があります。私が住んでいた地域ではほとんどの人が3つの言語が話せます。インドネシア語はもちろん、英語と台湾語も話せます。それはなぜかという、昔、アラブ、中国、ペルシアなどから多くの人々がインドネシアに移住して、インドネシアに

また、日本の技術のレベルは高いと知られていて、車に興味のあった私にはとても魅力的な国でした。

沼津高専に入る前から、私は将来の目標を持っていきます。それは人々の行きかきをもっとうまく改善することです。そのために私は毎日、色々な役に立つ技術を学んでいきたいと思っています。

本のお菓子はとても美味しいです。日本人は米を主食にしていますが、モンゴル人は肉が主食です。日本人はみんな優しいです。また、学校では後輩が先輩をととても尊敬しています。私の国ではあまり先輩を尊敬しないのでびっくりしました。しかしそれよりびっくりしたことは日本語と日本事情の授業で2週間も地震や津波などについて学んだことです。モンゴルで地震や津波という言葉あまり聞いたことがなかった私にとって少し怖かったです。

沼津高専に来てからもう1か月が経ちました。生活が忙しいので1か月が早く感じました。私はバスケットボールが大好きなので、バスケットボール部に入りました。モンゴルでは部活のように授業の後活動するものがあまりなかったので私にとっては、良い経験です。バスケットボール部のトレーニングはきついです、先輩たちが色々なことを教えてくれます。そのため私は好きなことをしながら楽しむことができ、嬉しいです。私が高専を選んだ理由は、発展途上国である母国の発展に貢献できる技術者になるためです。ですから、3年間自分の目的をかなえるために頑張りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

住んでいたからです。そのため、インドネシアでは地域によって文化や言葉などが多様性に富んでいます。インドネシアは、約2万の島からなる国で、山と海が多いです。インドネシアの気候は1年を通して、いつも暖かくて、日本と違って2つの季節しかありません。それは、雨季と乾季です。通常、晴れの日には気温は34°C-38°Cぐらいですが、暑い日には40°Cを超えることもあります。インドネシアは宗教もたくさんあって、仏教、キリスト教、イスラム教、とヒンズー教の人がいます。私自身は特に自分の宗教は持っておらず、クリスマスも祝いし、仏教的なイベントにも参加します。インドネシアと日本の違いをあげるときりがなく、季節や文化など多くのことが違いますので、これからも、もっと日本のことを学びたいと思っています。

日本の文化や社会になれることはとても重要なことだと思っていますので、初心を忘れずに、精一杯頑張りたいと思っています！

寮生会活動について

現在の沼津高専学生寮

機械工学科4年 寮長 鈴木 大介

沼津高専学生寮寮生会寮長の鈴木大介です。現在、学生寮には561名の寮生が生活しており、本校の学生の約半数の人が寮生活を行っています。寮生活の目的は「全人格教育」。目標は「協調性・自律性」ということで、寮生活を通して規律ある共同生活を行っている「教育寮」です。この大規模な学生寮は全国の高専と比べても珍しく、寮生で構成された寮生会が主体となって運営しているという点も特徴であり、誇れるものだと思います。

寮生活の代表的な行事である寮祭は今年度5月21日に開催され、多くの方々に来場していただき、成功を取ることができました。寮生活の具体的な行事として、毎年5月に開催している寮祭をはじめ、夏祭り、クリスマスパーティーなどすべての行事が寮生の手によって実現しています。これは、本校の教育理念である「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」という教育理念に基づいた寮生相互の指導により、挨拶、マナー、礼儀が身につく、積極性が生まれている証拠だと思います。

現在、寮生会では全員が住みやすい寮となるように改善点を模索しています。寮生活のルールは昔からあるものが多いです。僕自身、沼津高専学生寮で代々受け継がれてきている良い伝統を壊すつもりはありませんが、今の世の中からしてどうなのか？と思うようなルールもあります。このことは、寮の役員だけでなく寮生全員関わっ

てくるため、アンケートをとるなどして慎重に寮務教員の方々と協議をしていくつもりです。また、昨年度から「目安箱」を導入し、気になる点や改善してほしい点などを一般寮生に投書してもらうことで、役員も気づく点が多くあり、寮生活の改善に大きく役立っています。これらのように伝統を守りつつ、ふさわしいものはどれかという決断をし、寮生会も変わらなければならないと思っています。

ここまで、沼津高専学生寮の現在を述べさせていただきました。500人を超える大人数で共同生活を行っているため、思い通りに事が運ぶことがないときもあるかもしれません。そこは学生が主体となって運営しているため、失敗からなにか学ぶことも多くあると思います。そのため、保護者の方々にはこれまで通りの寮生会へのご支援のほどよろしくお願いします。



私の高専時代



今だから言えること

電気工学科31期
大 沼 巧

私は沼津の静浦という海と山に囲まれた漁師まちに生まれ育ち、遊びといえば魚釣り・磯遊び・素潜り・木登り・虫取りという、素朴な少年時代を過ごしました。そこから、工業の世界へ進む最初のきっかけとなったのは、父のDIYを手伝うのが好きで手先が器用だったこと、それから、勉強面ではこれといって得意不得意もなく、高校受験の際に、兄から「寮があって原付で通える面白い

学校があるけど、そういうのもいいんじゃない？」という、無責任な勧めがあったことだと記憶しています。高専では電気工学科に進みましたが、それも機械屋だった父から言われた「機械なら自分がわかるから、電気の方がいいんじゃないか」という、自分の進むべき道を自ら決めたとはいえないような進路選択でした。

高専を卒業してから十数年間地元を離れており、高専時代のことは断片的な記憶しか残っていません。まず、寮でトイレのスリッパが揃っていないことを階長にひどく叱られたこと、テニス部のボールボーイで「ボール行きます」と言ってから先輩にボールを投げ返すようにしつけられたこと、実験レポートを頑張って書いたこと、平林先生と若松先生に電気回路と電磁気を教えてもらったこと、遠藤先生に教わった数学、1年生の寮祭で無理

やり女装させられたこと、英語の先生がエジプトのことをエージプトと力を入れて発音していたこと、朝1時間目よりも前にドイツ語のスペシャル授業があったこと、というように20年以上経った今となっては小さな記憶の断片です。それでも、高専時代に学んだことは、確かにその後の人生の礎となっています。社会に出て最初に住んだ独身寮が6畳に2人部屋で、隣室との壁はベニヤ板という環境に、難なく適応できたのは高専寮のおかげだったと思います。また、設計業務や研究開発で、技術的な深堀ができるようになったのも、高専で数学を叩き込ま

れ、体系的に基礎固めをしたからだと思います。卒業後の1つ1つの経験を通じて、それまでに学んできたことの意味付けがされるのだと思います。

今高専時代に戻れるなら1つだけやっておけば良かったと思うことがあります。それは留学です。その思いを叶えるかのように、今、海外研修や留学の支援に積極的に取り組んでいます。私自身も2年前にようやく海外留学をすることができました。これまでお世話になった方々への感謝を胸に、次の世代へ恩送りを続けていきたいと思っています。

教育後援会から

若き夢を応援します

教育後援会会長 上 柳 麻里子

今年の桜は例年より少しのんびりと咲き始め、新学期に時期を合わせたかのように入学と進級の喜びに華を添えてくれました。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

今年度も県内はもとより、県外からも多くの仲間を迎えることができました。大きな夢を持って入学された皆さんが学生生活の中でその夢をさらに膨らませ、希望と自信を持って社会に力強く羽ばたいていくことを願っております。

優秀な技術者になるための勉学も大切です。同時にまた優秀な社会人になるために寮生活や部活動を通して人間関係を学んだり自立していくことも大切です。中学校を卒業してすぐに親元を離れての寮生活は不安でしょうが、頼れる先輩の優しい指導のもと、仲間と励ましあひながらの生活は、一步一步進んでいく自分の足取りを実感できるものとなるでしょう。とはいえ、目標を見失ったり、友達との関係に悩んだりと様々な問題もでてくることでしょう。そんな時に後ろから見守り、時には少し

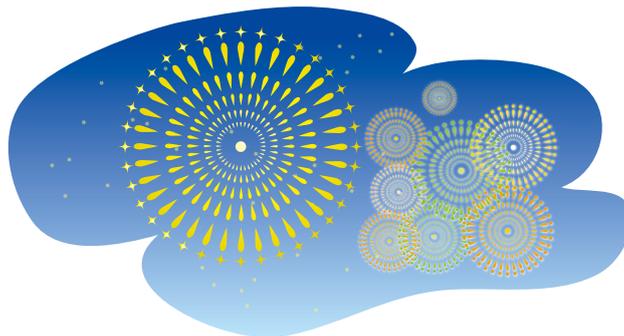
だけ背中を押して応援するのが私たち教育後援会の役割です。

昨年度、教育後援会の体制は大きく変わりました。これまでの一堂に会する総会ではなく地域単位での支部会を行うことにより、活発な質疑応答や意見交換ができるようになりました。専門部会では担当の先生に保護者の不安や疑問を素直にぶつけ、解決の道を一緒に探ることができるようになりました。保護者が学校や学生の様子について、より深く理解できるような、また、心配や疑問が少しでも軽減できるような体制になったと思います。一昨年度、昨年度の会長を始め、役員の方々、先生方や学校関係者の方々のご努力により、スムーズに新体制に移行できたことを大変感謝しております。新体制2年目の今年度はヨチヨチ歩きではあっても確実に前進できるように努めてまいります。そして、学校側へ質問や要望を伝えて解決してもらえばかりではなく、教育後援会としてできることは何か…ということを考えていきたいと思っています。

この教育後援会は保護者全員の協力により、大きなパワーを発揮できます。

皆さまのお力添えをお願いいたします。

未来を担う若い技術者の夢を応援していきましょう。



お 知 ら せ

平成29年度 沼津高専1日体験入学のお知らせ

本年度も、中学生、保護者及び中学校の先生方に沼津高専をより深く知っていただくため、下記のとおり1日体験入学を実施します。

本校の1日体験入学は、中学生その他の参加者に、沼津高専の興味のある学科や施設などを自分の目で自由に見ていただき、進路決定において目的意識を持ち、本校への進学的意思を固めていただくことを目的としてきました。毎年実施しているアンケート結果によると、参加生徒、保護者のほとんどが、進学したくなった、楽しかったと満足していただくことができ、当初の目的を達成することができました。

本年度1日体験入学の内容は、各学科紹介、学生寮食

事体験、学生会企画及びクラブ紹介、学内施設紹介などを予定しています。また、中学生及び保護者の方に好評を得ております進学説明会は、計5回実施します。この1日体験入学によって、毎年多数の中学生が本校を知り、入学を志望、決意するものと思われます。本校在籍の学生及び保護者の皆さん、ぜひ出身中学校の恩師・後輩又は知人の方々を通じ本校体験入学への参加をお勧め下さるようお願いいたします。

なお、参加申込書は、静岡・山梨県の全中学校及び神奈川県・愛知県の一部の中学校に送付され、申し込み期限は7月19日(水)となっていますが、お申し込みがなくても参加いただけます。

1 日 体 験 入 学

1. 日 時 平成29年8月5日(土) 9:30~15:00
2. 場 所 沼津工業高等専門学校全域
3. 実施内容
 - (1) 進学説明会
 - (2) 各学科・専攻科紹介
 - (3) 学内施設紹介

- (4) 学生会企画及びクラブ紹介
- (5) 学生寮食事体験
- (6) その他
4. 1日体験入学ホームページアドレス
http://www.numazu-ct.ac.jp/admission/opencampus/trial_enrollment



学生総会

平成29年度(8月~3月)行事予定表

平成29年

8月 1日(火) 夏季休業(7月18日から9月8日まで)
5日(土) 1日体験入学
18日(金) 全国高専体育大会(27日まで)

9月 11日(月) 授業再開
専攻科前期試験(15日まで)
25日(月) 本科前期末試験(29日まで)
専攻科後期授業開始

10月 4日(火) 2年ミニ研究発表会
10日(火) 本科後期開始
11日(水) 4年工場見学(13日まで)
13日(金) 2年特別研修
15日(日) 東海北陸地区ロボコン大会
中学生のための体験授業
25日(水) 文化講演会

11月 1日(水) 体育祭・学生総会
2日(木) 高専祭準備
3日(金) 高専祭(4日まで)
5日(日) 高専祭片付け
7日(火) 授業参観・学科説明会(17日まで)
11日(土) 東海北陸地区英語プレコン
18日(土) 1・2年TOEIC Bridge IP
3・4年TOEIC L&R IP

12月 7日(木) 中間試験(12月13日まで)
9日(土) 4年工学系数学統一試験
13日(水) テクノフォーラム
20日(水) 3年合宿研修説明会
専攻科入学説明会
25日(月) 冬季休業(1月5日まで)

平成30年

1月 9日(火) 授業再開
11日(木) 3年到達度試験(数学・物理)
17日(水) 3年インターンシップ説明会
3年合宿研修説明会
18日(木) 3年合宿研修(19日まで)
21日(日) 推薦入試
27日(土) 専攻科2年研究発表会
29日(月) 春季合宿説明会

2月 5日(月) 専攻科後期試験(9日まで)
9日(金) 専攻科1年長期インターンシップ最終
報告会
13日(火) 専攻科臨時休業(3月20日まで)
15日(木) 本科学年未試験(21日まで)
18日(日) 学力入試

3月 2日(金) 終業式・閉寮式
5日(月) 学年末休業(3月30日まで)
5年卒業研究発表(6日まで)
12日(月) 5年卒業判定会議
13日(火) 就職祭
15日(木) 1~4年進級判定会議
21日(水) 卒業式・修了式
22日(木) 専攻科学年未休業(30日まで)



「沼津高専だより」に関するお問い合わせ

出版委員会(事務担当:総務係)

Tel : 055-926-5712

E-Mail : soumu@numazu-ct.ac.jp

教養科 佐藤志保 准教授におかれましては、平成29年5月1日に急逝されました。生前のご功績を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

佐藤志保先生を偲んで

教養科 西 垣 誠 一

「先生、今いいですか？」時々佐藤志保先生は私にそう電話を掛けてこられ、私の研究室までいろいろな事の相談にいられていました。相談内容で一番多かったのはやはり数学教育のこと、とりわけ学生の理解度についてだったように思います。佐藤先生は、この20年あまり同じ数学教員として沼津高専の数学教育を支えてきた仲間でした。我々の先輩教員がいらしたときは、相談を受けるようなこともあまりありませんでしたが、いつしか歳を重ね私が最年長となるようになってからは、佐藤先生といろいろ話し合ってきたように思います。佐藤先生も十分ベテラン教員ですし、ご自分の考えをしっかり持っていらっしゃったのですが、自分の考えだけで突っ走ってしまうような方ではありませんでした。歳を取るとややもすると自分一人の考えに固執しがちですが、佐藤先生はいろいろな意見を確かめながらご自分の考えを補強していくタイプと言えました。そんな佐藤先生が体調の悪さを訴えられたのは昨年くらいからでした。私も「それは医者に行った方がいいよ。」とアドバイスした記憶がありますが、まさか命にかかわるようなことだとは思ってもいませんでした。いろいろストレスもあったのかもしれませんが、私にはあまり愚痴はこぼされませんでした。退職された先輩教員にメールで悩みを打ち明けていらしたようにも漏れ聞いています。しかし、そんなこんなで亡くなられた理由を作って納得させようとしても、「何故亡くなられたのだろう。」という思いは消えません。何より、ご本人自身が信じられないと思っておられるような気がしてなりません。

佐藤先生は今年度、電子制御工学科2年生の担任と第2学年担任の代表を務められていました。学生達も大きなショックを受けたことと思います。その後を私が引き継ぐことにしました。佐藤先生が心ならずも途中で引かざるを得なかった学級担任を、見えない力を借りながら努めていこうと思います。私の目には見えないけれども、佐藤先生はすぐそばにいらっしゃるような気がします。

心よりご冥福をお祈りします。



